



私たちは花が好き。緑が好き。人が好き。

園芸福祉ふくおかネット

花便り No. 60



- 目次
 - ・「第21回園芸福祉ふくおかネット通常総会」報告
 - ・「園芸福祉シンポジウム」報告
 - ・園芸福祉の庭
 - ・福岡市役所花壇
 - ・会員研修会
 - ◆ハンギングバスケット◆道具の手入れの仕方、研ぎ方
 - ・ボタニカルライフスクエア
 - 【一人一花ハッスル事業体験講座】実施
 - ・高齢者の方への寄せ植え指導
 - ・会員の園芸福祉活動
 - ◆障がい者施設での園芸活動◆野菜の葉っぱで作ってみました！
 - ・一人一花サミット2024のご案内
 - ・植物コラム
- ※お知らせ

「第21回園芸福祉ふくおかネット通常総会」報告

2024年5月25日(土) 於/アイランドシティ中央公園内にて

辻 和広

議長を勤めさせていただきました。私が2年半前に、右股関節の手術をし、今度は左足首と膝の調子が悪く、まだ定例作業の参加などはできませんが、よろしく願いたします。

総会では「令和5年度活動報告、会計報告」「令和6年度活動計画、予算案」の審議が行われ、賛成多数で決議されました。終了後、黒瀬さんより「浜名湖花博2024、園芸福祉シンポジウムin浜松」の報告がありました。

私事ですが、初年度から総会に参加させていただいていますが、当時とは会員の顔ぶれも多く替わり、新たなメンバーとの融合で「園芸福祉の庭」を拠点に「園芸福祉ふくおかネット」が活発に活動している報告を会員のグループLINEを見ながら楽しんでます。私も早く定例作業などに参加できるようにハビリ頑張ります。

現在、福岡市立特別支援学校「博多高等学園」に勤務し、作業学習、環境園芸班で花壇管理などに取り組んでおります。今年度は外部講師として黒瀬さんに来校していただき「ハンギングバスケットや寄せ植え」をする予定にしております。またその様子も報告できればと思っています。皆様、お体にはご自愛され、今後も園芸福祉活動、頑張っていきたいと思います。



「園芸福祉シンポジウム」報告

2024年5月19日(日) 於/浜名湖花博2024会場(静岡県)にて

諫山 みどり



5月19日(日)浜名湖花博2024の会場(静岡県)である浜名湖ガーデンパーク屋外ステージに於いて、「園芸福祉シンポジウムin浜松」が開催されました。

日本園芸福祉協会の吉長理事長による「農福連携の社会的価値」の基調講演後、20年前の浜名湖花博から始まった静岡県の農福連携、しずおかユニバーサル園芸ネットワークのこれまでの活動事例と、これからの取り組みに関するパネルディスカッションを聴講後、ガーデンデザイナー阿部容子氏(岐阜県在住)設計の

ユニバーサルガーデンを見学。ユニバーサルガーデンはエリアごとに色と香りを分けて植物を選んであり、年齢や障がいの有無に関わらず、どんな人にもガーデンセラピー効果が得られるようになってます。私達の庭づくりにも活かせるアイデアが沢山あり、早速、秋の花の植え替えに取り入れたいと思いました。

余談になりますが、私にとって今回初めての浜松は静岡グルメ(うなぎ、おでん、浜松餃子)を堪能。シンポジウム当日は雨が降りだしたり(昼食後に雨は上がりました)会場とは逆方向の電車に乗ったりの珍道中でしたー!!



園芸福祉の庭



沖本 円

今年の夏は異常な暑さの上に7月下旬から8月中旬までは雨無しの状態で、花壇の草花にとっても苛酷な日々が続きました。アイランドシティ中央公園の園芸福祉の庭の花壇も、月2回の定例作業では持たないのでは、と感じて仕事の合間に様子見をしていました。それでも7月いっぱい、レイズドベッドでさえ生き生きと元気そうでした。園芸福祉の庭で朝の体操などされている高齢の利用者の方の中には花殻摘みをして下さる方も。「この場所の花の美しさに癒されています、ありがとう」と声をかけてくださる男性など、地域住民の方に憩いの場の提供が出来ていることが何よりと感じていましたが、さすがに8月になり猛暑が続き、雨も降らない日々には葉焼けを起こす苗や枯れる苗もあり撤去しました。私は週3日仕事としてアイランドに来ていますが、休みの月曜日にはボランティアとして園芸福祉の庭の作業にも参加しています。朝から照り続ける暑い日差しの中、月曜日に出てきてくれた会員の皆さんと灌水、除草作業をして8月下旬台風明けの日曜日には10名以上の会員が集まって傷んだ苗や枯葉、花がら摘みをして9月の花壇が再び生き生きと蘇っていました。皆さんと一緒にこの夏を乗り越えることが出来ました。ありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。



8月12日 雨無しの猛暑続き



8月25日 台風にも耐えてくれました



9月4日 元気に育ってます



9月25日 ストレスを解消する花壇



9月25日 子どもたちも一緒に楽しむ花壇



9月25日 車椅子利用者も楽しめる花壇

福岡市役所花壇



一般社団法人福岡市造園建設業協会が、30周年の記念事業として整備され、市民のボランティアも一緒になって花植えされた花壇を管理させていただき、今年で7年目になります。市民の皆さまだけでなく、県外、海外からの方にも喜んでいただけるよう、これからも丁寧な管理をしていきたいものです。

久保 恵子

市役所花壇の管理作業は月に一度、午前中2時間という限られた時間で私にとって有意義な時間となっています。

元々季節の花や植物が大好きな私ですが、自宅以外で花壇を整備した経験はありませんでした。想像していたよりも遥かに体力を使いますが、花壇が綺麗になるとそんな時間も「あっという間」で、毎月のこの時間が楽しみになっています。活動を通して綺麗な花に癒されたり、植物のことを学ぶことができ、ご縁に感謝しております。

これからも市役所を利用される方そして市役所の前を通る方にとって過ごしやすい場所となるよう花壇の整備に携わっていきたく思っております。

会員研修会



熱心な会員からの要望に応え、定例作業（月末）の後に先輩が講師となって研修会を行なっています。これまで、苔玉や香りのサシェづくり、ハーブスプレーや多肉植物のエッグプランツ、ハンギングバスケットづくりや作業に使うハサミの研ぎ方まで行ってきました。研修会は新人さんからベテランさんまで大好評です。

◆ハンギングバスケット研修会 2024年4月28日



吉松 里美

私は今回で3回目の参加です。今までは秋に3種類位の花苗を使っていましたが、今回は3色のペゴニアとヘデラの2種類で、ヘデラはアクセント使いとの事。ペゴニア3色（白・ピンク・赤）の配置に苦労しましたが、花の色と艶やかな緑の葉のコントラストが素晴らしく、華やかな素敵なハンギングバスケットになりました。講師は黒瀬代表と近藤さん、的確な花苗選びとアドバイスで参加された皆様、各々素晴らしい作品に仕上がりました。私はヘデラを上段の右に少しと下段に3本配置しました。ヘデラの配置によって雰囲気ガラリと変わる他の方の作品を見て、2種類の花苗でも各々個性的に出来上がる事に感心しました。ハンギングバスケット作りは私にとって難しい作業ですが、仕上がった時は毎回感動して、自宅のベランダ（リビングから一番よく見える所）に飾っています。自分で花苗選びをして自宅で作れる様になるのはまだまだハードルが高いです。季節によって花苗の種類が変わるので、講師の方は花苗選び等、準備が大変かと思いますが、これからも定期的に研修会をして頂ければ大変嬉しいです！！



撮影日：5月1日 撮影場所：自宅外にて

須賀 陽子

久しぶりの参加でしたが経験者8名初心者2名で取り組みました。材料はペゴニア（ブラジル原産のペゴニア数種類を交配させて作出された園芸品種）とヘデラ（キツタ属の植物の学名）数種類。材料調達から準備とご指導、役員の方々の協力に感謝します。講師の黒瀬さんからは経験者は今回は一から自分で考えながら制作するという課題を与えられました。会員である安武園芸勤務の近藤さんにも優しく指導していただきました。結果は画一的でない個性豊かなセンスの作品をお互いに鑑賞できたので大変有意義で楽しい研修になりました。大事に管理して楽しみます。



撮影日：5月25日 撮影場所：自宅にて

◆ 道具の手入れの仕方、研ぎ方 2024年7月28日

米倉 浩美

講師の谷口相談役から園芸ハサミや鎌などの手入れの仕方、研ぎ方を伝授していただきました。忘れないうちにと早速、花の活動団体で使うねじり鎌数本を、教えていただいたようにケンマロンでサビ取り・汚れを落とし、砥石で研ぎました。ひたすら磨いていると無心になりピカピカになりました。以前は多少サビていても気にならず使っていましたが、道具の手入れ研修を受けてからは、ハサミやねじり鎌のサビが気になって、手入れする機会が増えました。ハサミなど園芸用道具は数年で買い替えるものと思っていました。が、きちんと手入れすれば半永久的に使うことができるのですね。これからは道具を大切にしたいと思います。



手入れ前：サビたねじり鎌



手入れ後：ピカピカの鎌

ボタニカルライフスクエア 【一人一花ハッスル事業体験講座】実施

北野 多美子

一人一花ハッスル事業は(公財)福岡市緑のまちづくり協会が実施しておりその事業の一環に【ボタニカルライフスクエア一人一花ハッスル事業体験講座】があります。

園芸福祉ふくおかネットは当初より参加しており、今年度は6月15日(土)と9月14日(土)に「オリジナルハーブスプレー作り」を実施しました。

「オリジナルハーブスプレー作り」は子どもさんからシルバー世代まで幅広く体験していただけますし、何といても自分の好みの香りをスプレーに出来るので好評を博しました。

香りは個人の好みや季節にも相違があるので、アロマオイルは7種類(オレンジスイート、ゼラニウム、ペパーミント、マンダリン、ラベンダー、レモンティートウリー、ユーカリ・シトリオドア)を揃えました。

体験者からは「気軽に簡単に出来て楽しかった」「自分の好きな香りで癒しの空間を満喫します」「家族や友人にプレゼントします」などの感想を頂きました。

来年度も開催されるのであれば、実施回数を増やし、ハーブスプレー作りの他にも皆さんに喜んでいただける体験講座を提案したいと考えていますので、会員各位にはスタッフとして多数参加いただき、五感を通じての交流を体感していただきたいと思ひます。

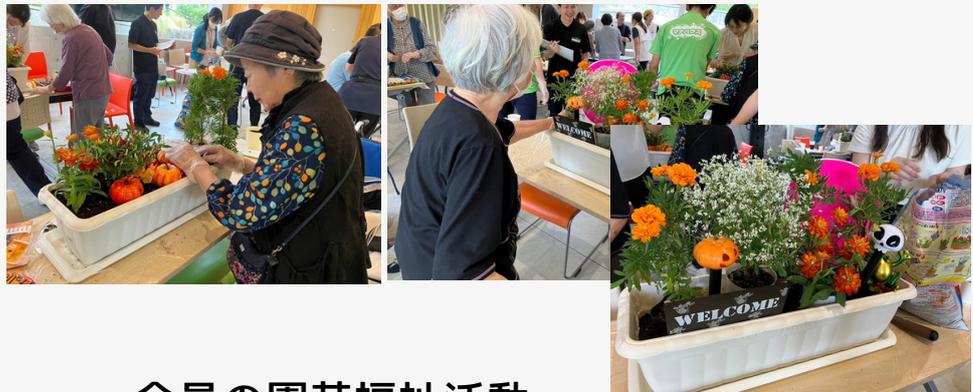


高齢者施設の方へ寄せ植え指導

近藤 由紀子

9月は認知症月間ということで、20日に開催された株式会社welzoさん主催の植物園オレンジガーデニングオリジナル寄せ植え作り会に、黒瀬代表、諫山副代表、そして私の3人で寄せ植えづくりの指導をさせていただきました。参加者はいくつかの高齢者施設のスタッフさんと利用者さんです。皆さんそれぞれに事前に構想を練り、オブジェを用意（手作りも多数）されており、会場では、「ああでもない。こうでもない」とプランターの中に個性豊かな世界を作っていました。日頃、園芸店で勤務する傍ら高齢者デイサービスにも勤める私ですが、高齢者施設の方々が、こんなにも熱気に包まれたイベントを今まで見たことがありませんでした。

「いつもと違う場所で、新しい人達と、新しいこと（園芸）をする」
これは認知症予防にはもちろん、人生を豊かにするのにとても有効な要素であると再認識することができました。



会員の園芸福祉活動

◆ 障がい者施設での園芸活動

溝口 孝夫

令和5年度に異動した学校での園芸活動です。令和5年4月に訪問教育部所属となり北九州市小倉南区にある重度心身障がい者（児）施設で学習指導を担当するようになりました。生徒は67歳から26歳まで12名（令和5年時）で各自の障がいの実態も多様でした。

健康に留意しながら年に2回の園芸活動を安全に取り組みるように生徒一人一人の活動方法や配慮事項を話し合っており取り組みました。

例えば目が不自由な生徒への指導では、担当が言葉かけをしながら危なくないことを伝えて手を添えて資材の硬い、軟らかい、形状、材質などの感触を感じてもらいました。花苗を鉢に定植する前に香りや葉や花の感触を体感して五感で感じてもらいました。他の生徒も過去に園芸活動の経験もあって、以前の活動を思い出しながら興味をもってみなさん楽しく活動に参加していただきました。花を植えた鉢は、フラワースタンドに並べて施設の玄関をきれいに彩ってくれました。

生徒は、病棟での生活が中心で外へ出る機会も少ない環境ですが、登校時に水やりを行うことで、花を育てるという目的ができ、外に出る機会ができました。自分で水やりをしたいとジョウロを握って、水やりを楽しむ生徒や自分が植えた鉢を指さして「これ、私が植えたの」「きれい」と喜んで声を発して笑顔で教えてくれる生徒もいました。年齢や体調に配慮して無理をせず水やりや散歩を楽しみました。また、屋外で日に当たり、鳥のさえずりや虫の声、木々の変化などに四季の移り変わりを感じて生活の中に「癒し」を感じることもできました。学習活動の一つの取り組みではありますが日常では味わえない楽しい時間の過ごし方や、それを体感できる場所や空間の提供がこの園芸活動を通してできたと思っています。



◆ 野菜の葉っぱで作ってみました！

米倉 浩美

子どもたちに植物に興味を持ってもらいたいと、私は数年前から植物園や公民館などで「葉っぱでお絵描き・エコバック作り」の体験講座を行い、子どもたちや親子の皆さんと楽しんでいます。ルーペで葉っぱの裏にある気孔帯を観たり、葉っぱを触ったり、香るなど植物を観察したあと、葉っぱに布用絵の具を塗り、自由にデザインしてエコバッグを作ってもらいます。

あるとき、ふと疑問に思いました。参加する子どもたちにとって庭や花壇で育つ植物は身近なのだろうか？ もっと身近にある植物、野菜の葉っぱを使ったらどうだろうか・・・と。

9月7日(土)片江公民館での「作ってみよう！ 野菜の葉っぱでエコバッグ作り」に小学1年生から5年生12名が参加してくれました。この日は、園芸福祉ふくおかネット相談役 山崎 博子さんの畑で収穫させてもらった落花生(ラッカセイ)、ナス、ゴーヤ、オクラ、山芋など 5 種類の野菜の葉を準備しました。まずは講座前恒例の「カタバミで10円玉磨き」。参加者全員に、ひたすら10円玉硬貨を磨いてもらいました。

「10円玉がピカピカになった!」と驚く子どもたち。なぜ10円玉がピカピカになるのかカタバミの葉っぱの成分説明や、サトイモの葉に水をかけてできるコロコロの水滴体験、落花生が実るまでの不思議な成長など。野菜のことについてお話をさせていただきました。会場が和んだあと、野菜の葉っぱでエコバッグ作りスタート。子どもたちに3種類の葉っぱを選んでもらい、エコバッグに葉っぱを置いて、絵柄をデザインしてもらいました。「葉っぱの裏に布用の絵の具を塗って、エコバッグに置いて葉っぱの上からキッチンペーパーをかぶせたら、版画のように手で擦ってください」と作り方の手順説明をしました。初めての体験に少し緊張していた子どもたちでしたが、付き添いで来られていたご家族も手伝って、みんな楽しそうにエコバッグを作り完成させました。

講座では、毎回使う葉っぱについてまとめた資料を参加者に配ります。その中の「オクラ」は原産国がアフリカ北東部で、日本に入ってきたのは幕末～明治時代と云われています。「オクラ」は日本語のような名前ですが、外来語「オクラ okra」英語名なのです。驚きました。山崎さんのおかげで、野菜のことを知るきっかけになりました。野菜はおもしろい!



山崎さんちの畑



サトイモ、落花生の葉っぱ



触覚のような子房柄に実った落花生 (花後に子房柄を伸ばして土の中に入り、実をつけます)



作業中



✦完成✦



「一人一花サミット2024」のご案内

●日時:10月5日(土)、6(日)の2日間 ●場所:福岡市植物園 ●開催時間:10時~16時
園芸福祉ふくおかネットは両日ともに「ハーブスプレー」と「エッグプランツ」の体験講座を行ないます。子どもから大人まで楽しめる花と緑の催しです。

植物コラム

ミステリアスな秋の花



花：ヒガンバナ 蝶：モンキアゲハ



場所：アイランドシティ中央公園

入船 真穂

お彼岸の頃に艶やかな真紅色に咲くヒガンバナ。どこか儂げでありながらも力強く、秋の訪れを告げる風物詩のようです。

曼珠沙華とも呼ばれ、正岡子規の短編の題にもなっています。幼い頃に読み、物語そっちのけで作中に登場する金色のへびや青や白の桔梗、そして赤いヒガンバナ/曼珠沙華が演出する神秘的で色彩豊かな景色を想像していた事を思い出します。

そんなヒガンバナには毒があり恐ろしい迷信も数ありますが、昔はモグラから稲を守るために田んぼの畦によく植えられたそうです。自然と共生する人々の知恵ですね。美しいけれど毒性がある、恐ろしい迷信もあるけれど田んぼの守り手でもある、一面だけで語る事ができないのがこの花の魅力を一層深めているのかもしれない。

この秋、あの鮮やかな赤に出会ったら、少し立ち止まってヒガンバナの魅力に思いを馳せてみませんか？もしかしたらこの花のまた別の一面を発見するかもしれません。

お知らせ

▽「園芸福祉の庭」定例作業

- ◆定例作業/第2月曜日・最終日曜日 10時～12時（6月～9月は9時～11時）
- ◆ところ/アイランドシティ中央公園 園芸福祉の庭（福岡市東区香椎照葉4丁目）
- ※雨天の時は中止、次週に変更です。

▽入会手続きのご案内

- ◆入会を希望される方は事務局（下記掲載）にご連絡下さい。その後下記の口座に年会費2,000円をお振り込み頂き入金確認後に入会となります。
- ◆活動と一緒にされているお仲間やお友達など、園芸福祉に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらお気軽にお誘い下さい。
- ◆お振り込み先/西日本シティ銀行 小笹支店 店番222 普通貯金 口座番号1025817
園芸福祉ふくおかネット 代表 黒瀬恵子

園芸福祉ふくおかネット事務局

〒811-1351 福岡市南区屋形原2-40-6-1
TEL 090-5020-8758（北野）
FAX 092-553-8066
E-mail engeifukushi.fukuoka@gmail.com
URL <https://www.engeifukushi-Fukuoka.net/>
花便り第60号 令和6年9月
編集・発行/園芸福祉ふくおかネット